

かきおかしよとう

# みなとオアシス笠岡諸島の特徴

大小31の島々からなる笠岡諸島。そのうち有人7島はそれぞれが特色のある島々です。島間に橋は無く、船で繋がる離島の魅力を是非体験してみてください！

## 漁師とつじの島「高島」

笠岡市笠岡港から約8km沖合の、笠岡諸島の最北端に位置する高島は、古くから瀬戸内海航路の要衝として栄えたといわれ、古事記に記されている神武天皇東征の際の高島行宮が置かれた島、という説もあります。



## 祈りとマリンスポーツの島「白石島」

周囲約10kmの笠岡諸島で2番目に大きい白石島は、古来有名な風光明媚の地であり、国指定の名勝にもなっています。お盆に行われる国指定重要無形民俗文化財の「白石踊」は源平水島合戦の戦死者の霊を弔うために始まったと伝えられており、全国的にも非常に珍しい盆踊りで白石踊見学、体験ツアーも行われ観光客が多く訪れます。



## 灯台と水仙の島「六島」

笠岡市笠岡港から約22kmにあり、笠岡諸島最南端の島であるとともに、岡山県の最南端でもあります。六島の南約4.5kmにある香川県庄内半島三崎との間は、潮流の速い海峡で、瀬戸内海を横断する大型客船などの重要航路となっています。この航路の安全を守るため、六島には岡山県で最初に灯台が設置されました。



## 石と流し雛の島「北木島」

島では北木石とよばれる極めて良質の花崗岩が産出し、その石を利用して大坂城や福山城の石垣や明治神宮神宮橋、靖国神社の大鳥居などが造営されたほどの名石です。現在でも採石と漁業が主な産業です。



## 潮待ちと椿の島「大飛島・小飛島」

笠岡市笠岡港から約18kmにある島で、一般的に大飛島・小飛島をあわせて飛島と呼ばれます。笠岡諸島は古くから瀬戸内海の交通の要衝で、中でも大飛島付近は瀬戸内海の東西の潮が離合する場所といわれ、往来する船がこの地で潮待ちをしていたと考えられています。



## 歴史と映画の島「真鍋島」

笠岡市笠岡港から約18kmにある島で、島名は、真南辺の島、つまり備中国小田郡の南端にある島という意味で、後に真鍋の字をあてたと考えられています。平安時代末期に藤原氏の一族が水軍の根拠地を置いて、付近の島々を支配下に治めていたという説や、源平合戦で平家方に属した真鍋氏の城趾や供養のために建てたと伝えられる石造宝塔などの史跡があり、歴史を今に伝える記録や史跡・行事の多さは、笠岡諸島でも随一です。





# みなとオアシス笠岡諸島の魅力

参考：笠岡市観光連盟Webサイト

## 知る

- K's LABO (ストーンミュージアム)



- 白石踊 (白石島)



- 真鍋島ふるさと村資料館



大阪城や東京駅、日本銀行本店本館といった著名な建造物に使用されてきた「北木石」、国指定重要無形民俗文化財「白石踊」のほか、昔の島の生活を知ることが出来るスポットがたくさんあります。

各島を巡り、太古の昔から受け継がれてきた島の歴史、文化を是非学んでみてください。

## 味わう

- しまのこし (内陸部)



笠岡諸島の食材を使った食事を楽しんでいただきながら、島の魅力にも触れられる情報発信施設。

食事の提供だけでなく、全国のつながりのある島の特産品の販売、笠岡諸島の観光・宿泊情報提供など、島に足を運んでいただく準備・相談窓口としても利用できます。

## 見る

飛島は椿、高島はつつじ、六島は水仙と、笠岡諸島の島々では四季折々の花が見られ、花の名所を巡るツアーもよく開催されています。

- 椿 (飛島)



- つつじ (高島)



- 水仙 (六島)



- 走り神輿 (真鍋島)



- 流し雛 (北木島)



真鍋島の走り神輿、北木島の流し雛など、特色のある伝統行事も離島の魅力あふれるイベントの一つです。

## 遊ぶ

- シーカヤック体験 (白石島)



シーカヤックやウインドサーフィンなどマリンスポーツも体験でき、家族や仲間と楽しく海上散歩も楽しめます。

笠岡諸島は令和元年5月に丸亀市、土庄町、小豆島町の各島とともに「石の島」として日本遺産に認定されました。

## ✓日本遺産とは

日本遺産とは、文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定し、地域活性化を目指す取組です。

魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

令和元年5月に、笠岡市を含む2市2町（ほか香川県丸亀市、土庄町、小豆島町）が評価され日本遺産に認定されました。笠岡市においては笠岡諸島の「高島」・「白石島」・「北木島」・「大飛島」・「真鍋島」が認定されました。



## ✓瀬戸内海の石文化

瀬戸内備讃諸島の花崗岩と石切り技術は長きにわたり日本の建築文化を支えてきました。

日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表である大坂城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、ここから切り出された石で築かれています。島々には、400年に渡って巨石を切り、加工し、海を通じて運び、石と共に生きてきた人たちの希少な産業文化が息づいています。

世紀を越えて石を切り出した丁場(ちょうば)は独特の壮観な景観を形成し、船を操り巨石を運んだ民は、富と迷路の様な集落を遺しています。今なお、石にまつわる信仰や生活文化、芸能が継承されています。



北木島の丁場